

★ かながわの学びの充実・改善のための重点事項

重点1 子どもたちの学びに対する意欲の向上 (p. 4・5)

- 「各教科の勉強が好き」「授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答している児童・生徒ほど、各教科の平均正答率がそれぞれ高い傾向にあります。
- 「自分には、よいところがある」「先生が自分のよいところを認めてくれている」と肯定的に回答している児童・生徒は近年、それぞれ8割以上、9割以上となり、概ね高い割合で定着しています。

POINT!!



- 子どものよさや可能性を積極的に認めるとともに、子どもたちが互いを認め合い、学び合えるような授業づくりや学級づくりに取り組んでいくことが重要です。

重点2 自分の考えを文章等で表現する力の向上 (p. 6・7)

- 問題形式に着目すると、選択式や短答式に比べて、記述式の問題の平均正答率が低く、無解答率は高い傾向にあります。
- 自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向にあります。

POINT!!



- 自分の考えを文章等で表現する力の向上のためには、子どもたちの解答状況を把握するとともに、「報告書」や「授業アイディア例」を活用して自身の授業改善に取り組むことが大切です。そして、学習指導要領の指導事項を確認し、系統性を意識して指導することが重要です。

重点3 授業改善の推進 (p. 8・9)

- インターネットを使って情報を収集する、分からないことがあったときに自分で学び方を考え工夫するなど、児童・生徒が学び方を選択できる状態にあるほど、児童・生徒の各教科の平均正答率が高い傾向にあります。

POINT!!



- 主体的・対話的で深い学びを実践するために、「子どもが自分の学習状況を把握し、学び方を選択できるようにする」ことや、「先生が子どもの学習状況を正しく見取り、実態に応じた授業づくりをする」ことが重要です。

重点4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進 (p. 10・11)

- 家庭において、学校での学習状況について話題にしている児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向にあります。

POINT!!



- 子どもたちが自身の学びの目的や進捗を捉え、学び方を調整していきながら主体的に育成を目指す力を身に付けられるよう、日々の授業において子どもたちと、単元内の各授業のめあてや学習内容、評価の方法やタイミング等の学習計画を共有していくことが大切です。
- 地域の魅力や材を活用した探究活動を設定したり、地域の特長を学習課題に取り入れたりしながら、その学校ならではの教育活動の充実を図り、子どもたちが学習を自分の事として捉えられるようにすることが重要です。